

プライバシー意識の日台比較¹ —インターネットへの信頼度との関係

石井 健一

A Comparative Study of Privacy Awareness between Taiwan and Japan: Relationship with Internet Trust

Kenichi Ishii

要約

本研究は、日本人のインターネットへの信頼度が国際的に低いのではないかという問題意識に基づき、その要因を分析することを目的とした。日本と台湾でアンケート調査を実施した結果、当初の想定とは異なり日本よりも台湾においてインターネットへの信頼度が低いという結果になった。また、プライバシー意識もほとんどの項目が台湾において強かった。プライバシー意識とインターネットへの信頼度に関しては有意な相関がみられなかった。ただし、関係流動性が国の違いによるインターネットへの信頼度への影響を媒介しているのではないかという仮説は、媒介分析の結果から支持された。一方、当初の仮説とは異なり、インターネットの信頼度は、プライバシー意識や SNS での自己開示との関係は低かった。

キーワード：プライバシー意識、インターネット利用、インターネットの信頼、関係流動性、SNS 利用、自己開示、台湾

Abstract

Based on an awareness of the problem that trust in the Internet among Japanese people may be low internationally, the purpose of this study was to examine factors contributing to this low level of trust. The results of the questionnaire survey conducted in Japan and Taiwan showed that, contrary to initial expectations, trust in the Internet is lower in Taiwan than in Japan. In addition, privacy awareness was stronger in Taiwan for most of the items. There was no significant correlation between privacy awareness and the level of trust in the Internet. However, the results of the mediation analysis supported the hypothesis that relational mobility mediates the effects of country differences on Internet trust. On the other hand, contrary to the hypothesis, Internet trust was not correlated to privacy awareness and self-disclosure on social networking sites.

¹ 本研究はJSPS科研費(18KT0096)の助成を受けたものである。

問題の背景

筆者らは、World Internet Project (WIP) の日本チームとして2000年からインターネット利用行動の国際比較研究に携わってきた(小笠原、木村、石井、遠藤、橋元、三上, 2020)が、その国際比較調査の結果の中で、図1のように日本人はインターネットへの信頼度が著しく低いことを見出した(Ishii 2017; 石井 2016; 三上、橋元、吉井、遠藤、石井 2004)。また、日本人は、個人情報の開示度が低い(Ishii 2017a; 石井 2014)が、これはインターネットへの信頼度が低いことと密接な関係があると考えた。

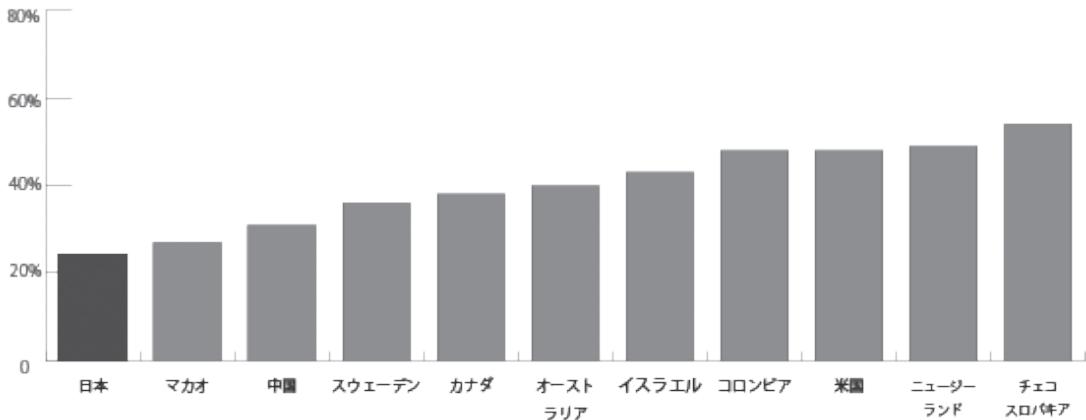


図1 インターネットを「大部分」または「全部」信頼でき正確とした比率

インターネットへの低い信頼度は、プライバシー意識をはじめとして、他の様々なインターネット利用行動に影響を与えているのではないかと予想される。そこで、本研究は日本人のインターネットへの信頼度が低いのはなぜか、という問いに答えることを第一の研究目的とした。

研究目的1 なぜ、日本人のインターネットへの信頼度は低いのか？

本研究では、インターネットへの信頼度に見られる文化差が、社会的ネットワークの特性で説明できるのではないかと予想した。この研究目的に対応する仮説として、「日本人と台湾人のインターネットへの信頼度の違いは、関係流動性によって媒介されている」を検証することにした。

関係流動性 (relational mobility) とは、特定の社会において個人が関係をもつ相手を個人の好みによって選択できる程度である (Yuki & Schug 2012)。先行研究によると日本は台湾よりも関係流動性が低いことが示されている(日本: -0.414, 台湾: -0.294, Thomson ほか 2021)。関係流動性は、様々なタイプの人間行動の文化差を説明する変数として使われている。たとえば、対人関係における自己開示 (Schug, Yuki, & Maddux 2010) や SNS における自己開示 (Thomson & Ito 2012) との関係が報告されている。いずれも、関係流動性が高いほど他人に情報を公開する程度が高いという結果であった。

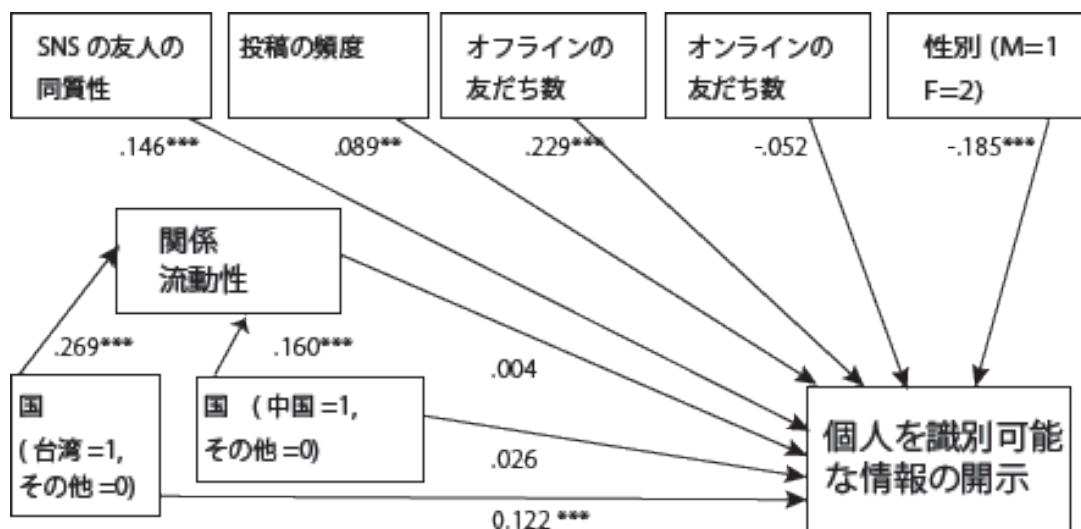


図2 日本、中国、台湾における個人属性情報の開示と関係流動性による媒介の因果分析 (Ishii, 2017a)

中国や台湾と日本の SNS での個人情報の開示度の違いが、関係流動性に媒介される結果も示されている。図2は、Ishii (2017a) に掲載された表 (原文は英語) を日本語に翻訳したものである。媒介分析の結果によると、日本と中国、台湾の個人属性情報の開示の差は、関係流動性によって有意に媒介されることが示されている (Ishii 2017a)。つまり、日本人は SNS 上の個人情報の開示度が中国や台湾の人々よりも低い、その差は関係流動性の違いによって説明されるのである。

また、本研究では、インターネットへの低い信頼度が他のインターネット上の行動にどのような影響をもたらしているのかも明らかにしようとした。プライバシー意識や個人情報のネット上の開示については直接的な影響があると考えられるが、これ以外にもネットショッピングや電子政府の利用など色々なインターネット利用行動に影響を及ぼしていると考えられる。過去の研究でも、台湾人は日本人とは対照的にプライバシー意識に関して開放的であり、インターネットへの信頼度も高いことが過去の申請者のグループの研究結果 (Ishii 2017a; Ishii & Wu 2008) で示されている。本研究では、こうしたプライバシー意識の影響を明らかにすることも目指した。

研究目的2 インターネットへの信頼度は、インターネット利用行動にどのような影響を及ぼしているのか？

研究目的2に関しては、まず、「インターネットへの信頼度は、ネット上でのプライバシー意識に影響を与えている」という基本的な仮説を検証した上で、インターネットへの信頼度がネットショッピングなどインターネットの利用行動にどのような影響を与えているかを見ることを目指した (ただし、この結果については本報告では省略する)。インターネットへの信頼度については、本研究では SNS (Social Network Service) の利用に焦点をあてた分析を行う。日本人と台湾人の SNS 利用行動を比較することにより、「日本と台湾の SNS におけるインターネットの信頼度は、SNS 上の個人情報の開示状況に影響を与える」という仮説を検証する。

これらの研究目的を達成するため、日本および台湾において質問紙調査を行った。まず、日本語で独自の設問を作成し、日本社会における SNS 利用とプライバシー意識の関係、プライバシー意識・インターネットへの信頼度、インターネット上のネットワークの特性、回答者の属性、その他のインターネット行動・態度に関する項目を調査する。なお、これらの文化差を分析するため、日本語の質問文を中国語に翻訳した上で台湾でも同様の規模のオンライン調査を実施することを目指した。

研究目的と仮説

上記の研究目的にもとづき、以下のような仮説を設定した。

仮説 1 台湾人よりも日本人の方がインターネットへの信頼度が低いであろう。

仮説 2 台湾人よりも日本人の方でプライバシー意識が強いであろう。

仮説 3-1 インターネットの信頼度は、プライバシー意識と正の相関関係があるであろう。

仮説 3-2 インターネットの信頼度は、関係流動性と正の相関関係があるであろう。

仮説 4 台湾と日本のインターネット信頼度の違いは、関係流動性によって媒介されているであろう。

仮説 5 台湾と日本において、インターネット信頼度は、SNS 上の個人情報の開示度と正の相関があるであろう。

方 法

日本での質問紙調査

日本ではクロス・マーケティング社に委託して2020年2月にオンラインで質問紙調査を実施した。対象者は18～69歳の男女、対象者数は1000人とし、日本の人口分布を考慮して以下のように男女別に回収数を割り当てることにした。

表 1 男女別、年齢別の割り当て表 (%)

	男	女
18～19歳	1.6	1.6
20～29歳	8.3	7.9
30～39歳	9.8	9.5
40～49歳	12.2	11.9
50～59歳	9.7	9.6
60～69歳	8.7	9.2

実際の結果は、男性50.3%、女性49.7%、平均年齢44.1歳（標準偏差13.8）となった。就業状況は表2のようになった。なお、この調査とは別に日本のみでのオンライン調査も実施しているが、この結果については、今回の報告書では省略する。

表2 日本の回答者の仕事の状況

1	フルタイム（正社員・正職員）	42.7
2	フルタイム（派遣社員・派遣職員）	4.2
3	パートタイム、アルバイト	16.7
4	専業主婦／専業主夫	15.3
5	学生・生徒	5.1
6	無職	8.5
7	退職している	3.0
8	その他	4.5

台湾での質問紙調査

台湾の InsightXplorer 社に委託して 2020 年 1 月にオンラインで質問紙調査を実施した。対象者は 18 ～ 64 歳の男女で少なくとも一種類以上の SNS（Facebook, LINE など）を使っている者とした。対象者数は 900 人とした。その結果、男性 46.8 %、女性 53.2 %、平均年齢 38.7 歳（標準偏差 11.7）となった。また、2020 年 10 月に同一の対象に対してパネル調査を行い、いくつかの項目について補充質問をした（N=500）。ただし、本報告書ではこの追加調査の結果については省略する。

関係流動性の尺度

日本と台湾において、下記のような質問で関係流動性を測定した。なお、質問文については山田、鬼頭、結城（2015）に掲載されていた尺度を用いた（回答選択肢は 7 件法）。質問における「彼ら」は「あなたと普段つきあいのある人たち」とした。

表3 関係流動性の尺度と平均値

		日本 (N=1000)	台湾 (N=900)
日本語	中国語	平均値	平均値
1 彼ら（あなたと普段付き合いのある人たち）には、人々と新しく知り合いになる機会がたくさんある	他們有很多機會去認識其他人	3.40	4.14
2 彼らは初対面の人と会話を交わすことがよくある	他們與之前從未見面之人交談是很常見的	3.35	4.00
③彼らには、新しい友人を見つける機会があまりない	他們結交新朋友的機會很小	3.35	4.33
④彼らにとっては見知らぬ人と会話することはそうあることではない	他們與從未見面的人交談並不常見	3.37	3.37
5 彼らが新しい人たちと出会うのは簡単なことだ	他們很容易結識新朋友	3.49	3.49
6 彼らは、ふだんどんな人と付き合うかを、自分の好みで選ぶことができる	他們可以選擇交往的對象	3.63	3.93
7 もし、現在所属している集団が気に入らなければ、彼らは新しい集団に移っていくであろう	若他們不喜歡目前的群體，他們會退出，并尋找更喜歡的	3.58	3.14

⑧ 彼らにとって、付き合い相手を自由に選べないことはよくある	他們通常無法自由選擇他們交往的對象	3.33	4.04
⑨ たとえ所属する集団に満足していなかったとしても、彼らはたいていそこに居続けることになる	即使他們對所屬的群體並不完全滿意，他們通常亦會留下來	3.49	3.76
10 彼らはどの集団や組織に所属するかを自分の好みで選ぶことができる	他們可以選擇所屬的群體和組織	3.62	4.21
⑩ たとえ現在の間人関係に満足していても、彼らはそこに留まり続けるしかないことがよくある	即使他們對目前的關係不滿意，他們往往別無選擇，只好繼續在一起	3.42	3.50
⑪ たとえ、現在所属する集団から離れたいと思っても、彼らはそこに留まらざるをえないことがよくある	即使他們可能想要離開，但往往別無選擇，只好留在他們不喜歡的群體	3.41	3.43

クロンバックの α による信頼性分析の結果は、日本・台湾ともに、全項目を用いた場合は一次元性がないことが明らかになった。表3における単純加算値の尺度（ただし、番号に○がついているものは逆転尺度なので減算）の結果は、日本では α 値=0.071、台湾では α 値=0.678と日本の回答者の値が著しく低かった。また、表3の項目1,2,5,6,7,10と逆転項目3,4,8,9,11,12は、本来負の相関関係があるはずであるが、正項目と逆転項目の総点の相関係数は、日本では $r=0.762$ 、台湾では $r=0.213$ とどちらも正の値で有意であった。

尺度の信頼性が低くなった理由として、回答者のsatisfice（三浦・小林 2015）の影響が考えられる。satisficeとは、「省力回答」（大森 2021）と訳されているように、特にネット調査において努力を最小化して回答することを意味している。省力回答者は、表形式の質問において同じ回答選択肢を選ぶ傾向があることが報告されている（大森 2021）。そこで、satisfice的な回答パターンがどのくらい含まれるのかをしらべるため、この12項目について全て同じ回答をしている回答者がどの程度いるのかを求めてみた。その結果、日本では394人（39.4%）、台湾では93人（19.1%）の回答者が12項目の全てに同一の回答をしていることが判明した（しかも、これらの回答は全員が真ん中の4を全てについて選択していた）。これらの同一回答者（以下「satisfice回答者」とよぶ）を除いた場合、日本については $\alpha=0.606$ 、台湾は $\alpha=0.679$ となり、日本において α 係数の値が改善された。なお、「satisfice回答者」の特徴については、付録1の表9にまとめてある。「satisfice回答者」は他の尺度項目においても同一の選択肢を連続的に選ぶ傾向がみられた。

さらに、他の項目との相関係数が低い項目を除外して尺度を再構成した。具体的には、項目1,2,3（逆転項目）、5,6,10の6項目で尺度を構成したところ、クロンバックの α 値が日本と台湾ともに0.716となった。以下では、「関係流動性」をこの6項目の尺度の加算値で定義する（ただし、satisfice回答者は分析から除く）。男女別に、この尺度値を計算したところ、表4のようになった。各属性別に分散分析を行ったところ、日本における性別のみが5%水準で統計的に有意であり、男性の関係流動性が有意に低かった（ $F=4.6$, $df=1$, $p<.05$ ）。

表4 関係流動性の属性別平均値

	日本	N	台湾	N
全体	23.3	606	25.5	807
男性	22.8	292	25.5	378
女性	23.7	314	25.4	429
年齢				
10代	23.6	24	25.0	8
20代	23.4	109	25.6	203
30代	23.1	124	25.2	221
40代	22.3	129	25.7	208
50代	23.8	112	25.2	131
60代以上	23.8	108	25.9	36

結果と考察

記述統計の結果

プライバシー関係の質問の結果は、表5のようになった。意外なことに台湾においてほとんどの項目の値が日本よりも高い（プライバシー意識が強い）という結果であった。また、インターネットへの信頼度も日本の方が高いという結果であった。したがって、本研究が当初予想していた仮説1および仮説2は支持されなかった。

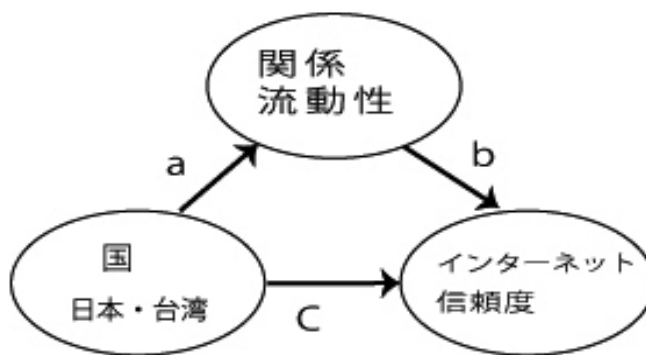


図3 関係流動性を媒介変数とするモデル

表5 プライバシー関係の質問の記述統計

国 件数 (N)	日本 1000	台湾 900		
	平均値	平均値	F 値	有意確率
インターネット信頼度	5.01	4.65	12.18	***
テレビ信頼度	5.73	5.18	22.74	***
新聞信頼度	5.55	5.31	3.55	
1 プライバシーはもはやないのが現実だ	3.13	3.64	125.53	***
2 私のプライバシーを政府がネットを利用して侵害しているのではと不安だ	2.83	3.70	357.50	***
3 私のプライバシーを企業がネットを利用して侵害しているのではと不安だ	3.02	3.83	335.95	***
4 私のプライバシーを他人がネットを利用して侵害しているのではと不安だ	3.04	3.87	346.37	***
5 わたしは、ネット上で自分のプライバシーを守ることに積極的である	3.09	3.88	338.66	***
6 ネット上のプライバシーに関する不安が大きさに騒がれ過ぎている	2.81	2.96	10.75	**
7 わたしは何ら隠すものはない	2.67	3.10	80.36	***
8 インターネットを使う時には、自分のプライバシー情報を公開するかどうか管理できる	3.04	3.83	384.94	***
9 携帯電話やスマートフォンを使っているときは、たとえ友人でも画面を見られたくない	3.32	3.59	33.09	***
10 友人との会話を知らない人に聞かれたくない	3.40	3.79	78.53	***
11 ふだん持ち歩いているカバンの中身は、たとえ友人でも見られたくない	3.18	3.55	58.33	***
12 自分や家族の収入の額は、他人には知られたくない	3.55	3.89	52.95	***

*** p<.001

回帰分析によるインターネットへの信頼度の要因比較

インターネットへの信頼度は日本・台湾のいずれにおいても、プライバシー意識とは相関関係がみられなかった。表9（付録）は、インターネットへの信頼度とプライバシー意識の各項目との相関係数である。日本で「3. インターネットを使う時には、自分のプライバシー情報を公開するかどうか管理できる」と有意な関係がみられる以外は、全ての項目で統計的に有意な相関は見られなかった（なお、この分析では satisfice 回答者は除外している）。つまり、プライバシー意識は、インターネットへの信頼度とは関係があるとは言えず、仮説 3-1 は支持されなかった。

また、インターネット信頼度と関係流動性の間には、日本・台湾のどちらにおいても有意な関係がみられた。表7は、インターネットの信頼度を従属変数とした回帰分析の結果である。日本と台湾のいずれにおいても、関係流動性が高いほどインターネットへの信頼度が高いという関係がみられる。このため、仮説 3-2 は支持された。

表6 インターネットの信頼度を従属変数とした回帰分析

	日本 N=606		台湾 N=807	
	係数	t 値	係数	t 値
定数項	4.630	5.33**	4.722	5.48***
関係流動性	0.040	2.41***	0.062	3.201*
年齢	-0.001	-0.18	-0.023	-3.76*
性別	-0.097	-0.53	0.130	0.90
学歴 (教育年数)	-0.019	-0.44	-0.059	-1.69

次に、日本と台湾のインターネットの信頼性の違いは関係流動性に媒介されているという仮説4 (図3) を Sobel Test で検証した。なお、計算にあたっては、<http://www.quantpsy.org/sobel/sobel.htm> のサイトを利用した。その結果、Sobel Test の統計値は3.66であり、0.1%水準で統計的に有意であった。つまり、国の違いが関係流動性を媒介して影響を与えていると言え、仮説4は支持された。図1におけるa,b,c (標準化回帰係数) の値は、a=0.234 (t=9.052***), b=0.104 (t=3.847***), c=-0.118 (t=-4.366***) であった。なお、ここで国については日本=0, 台湾=1の値で定義されている。

インターネットへの信頼性に関する日台比較の結果をまとめると、日本の方が信頼度が低いという当初の予想とは異なる結果となったが、関係流動性については、日本・台湾ともに個人レベルでインターネットの信頼度にプラスの影響を与えているという結果が得られた。台湾の方がインターネットの信頼度が低くなった原因については、今後の研究課題として残される。

インターネットへの信頼度と SNS の利用

最後にインターネットへの信頼度と SNS の利用との関係についての分析結果を示す。台湾と日本において、最も使われていた SNS は LINE であった。そこで LINE を主な SNS として利用している回答者に限定して、LINE での個人情報の開示 (全利用者に対する開示の比率) について日台間で比較してみた。その結果が表7である。一見してわかるように、台湾の方が情報の開示度が圧倒的に高い。すべての項目において台湾の方で開示度が高いという傾向がみられる。これは、先行研究の結果と同じ傾向を示すものである (石井 2013, Ishii 2017a)。

表7 LINE での個人情報の開示 (%)

	日本 N=543	台湾 N=652
名前 (氏名)	29.5	41.3
住所 (都道府県)	11.8	21.9
年齢	11.0	16.4
性別	19.9	36.7
顔写真	9.0	42.9

誕生日	11.4	17.2
結婚状況	7.2	19.6
所属している会社名または学校名	3.5	15.6
趣味・関心領域	5.7	16.3
email アドレス	2.4	12.4
電話番号	2.9	11.7
考え方や価値観	3.1	11.5
体型情報（身長、体重など）	2.6	9.2
友達の状況	2.6	10.0
食べた料理の写真	4.4	18.4
毎日の生活の感想	3.1	13.3
訪問した先の写真	4.2	18.7
政治・社会問題に関する意見	2.0	10.6

そこでLINEを最も使っている利用者に限定し、かつsatisfice回答者を除外してLINEの利用時間およびLINEでの個人情報の開示度（表の項目のうち開示している個数）との関係进行分析してみた。性別と年齢を統制した偏相関係数の結果が表8である。日本においてLINEの個人情報開示度と有意な正の相関がみられたほかは、有意な関係はみられなかった。つまり、インターネットへの信頼度がSNSの利用度と関係しているという仮説5は、部分的にしか支持されなかった。

表8 インターネットへの信頼度との偏相関係数
(性別と年齢を統制)

	日本 (N=491)	台湾 (N=806)
LINE 利用時間	.043	.067
LINE での個人情報開示 (開示した項目数)	.116***	.076

研究成果の学術的意義・社会的意義

本研究は、基本的に前提としていた仮説1と仮説2は支持されなかったが、それ以外にいくつかの興味深い結果を得ることはできた。その一つは、関係流動性とインターネットへの信頼度には正の相関関係があり、台湾と日本におけるインターネットへの信頼度の差が関係流動性に媒介されていることが分かったということである。

従来から日本のインターネットは、ブロードバンド環境などインフラに関しては先進的であるにもかかわらず、実際の利用行動が他国に比べて低い水準にとどまっていることが指摘されていた。本研究ではこうした利用行動のギャップを説明する可能性としてインターネットの信頼度を取り上げた。しかし、先行研究とは異なり本研究では、日本人のインターネットへの信頼度が台湾人に比べて低いという結果にならなかった。ただし、関係流動性がインターネットの信頼度を規定してお

り、また台湾との差を媒介しているという結果は得られた。この結果は、インターネットに関する施策を考えると、単純に他国と同じ施策を行うのではなく、日本人利用者の文化的背景を考慮に入れるべきであることを示唆している。

参考文献

- 石井健一 (2013) 「SNS 利用の比較文化論的研究」調査結果の概要, Institute of Socio-Economic Planning Discussion paper series, 1313 号, pp1-9.
- 石井健一 (2014) 「Facebook 利用者の日米台比較—個人情報の開示とネットワークの同質性を中心に—」, 『情報通信学会誌』, 31 (4) :pp.37-48.
- Ishii Kenichi (2017a) A Comparative Study Between Japanese, US, Taiwanese, and Chinese Social Networking Site Users: Self-Disclosure and Network Homogeneity, Tellería, A.S. (Ed.) , *Between the Public and Private in Mobile Communication* (Routledge) , pp.155-174.
- Ishii Kenichi (2017b) Online communication with strong ties and subjective well-being in Japan, *Computers in Human Behavior*, 66, pp129-137.
- Ishii Kenichi & Ogasahara Morihiro (2007) Links between real and virtual networks: A comparative study of online communities in Japan and Korea, *Cyberpsychology & Behavior*, 10 (2) , pp.252-257.
- Ishii Kenichi & Chyi-In Wu (2006) A comparative study of media cultures among Taiwanese and Japanese youth, *Telematics and Informatics*, 23 (2) ,pp.95-116.
- 三上俊治、橋元良明、吉井博明、遠藤薫、石井健一 (2005) 『インターネットの利用行動に関する実態調査 2005』、独立法人通信研究機構.
- 三上俊治、橋元良明、吉井博明、遠藤薫、石井健一 (2004) 『インターネットの利用行動に関する実態調査 2004』、独立法人通信研究機構.
- 三上俊治、橋元良明、吉井博明、遠藤薫、石井健一 (2002) 『世界インターネット利用白書—主要6カ国』 NTT 出版.
- 三浦麻子、小林哲郎 (2015) オンライン調査モニタの Satisfice に関する実験的研究、*社会心理学研究*, 31 (1) 1-32.
- 三浦麻子、小林哲郎 (2016) オンライン調査における努力の最小限化 Satisfice 傾向の比較 IMC 違反率を指標として、*メディア・情報・コミュニケーション研究 2016 年 第1巻* pp. 27-42.
- 小笠原盛浩、木村忠正、石井健一、遠藤薫、橋元良明、三上俊治 (2020) インターネットと政治、プライバシー、AI/ロボット - 2018 年ワールド・インターネット・プロジェクト日本チーム (JWIP) 調査結果から -、*東京大学大学院情報学環紀要 情報学研究・調査研究編*, No.36, pp.376-434 https://www.iii.u-tokyo.ac.jp/manage/wp-content/uploads/2020/03/36_9.pdf
- 大森翔子 (2021) インターネット回答における省力回答者に関する一考察、*政策研究ノート (NIRA)*, vol3, <https://www.nira.or.jp/paper/note03.pdf>
- Schug, J., Yuki, M., & Maddux, W.W. (2010) . Relational mobility explains between- and within-culture differences in self-disclosure toward close friends. *Psychological Science*, 21, 1471-1478.
- Thomson, R., Yuki, M., Kito, M., Schug, J., Kavanagh, C. M., Milfont, T. L., ... Visserman, M. L. (2021, November 1) . Thomson et al. (2018) Relational Mobility Multi-Country Study. Retrieved from osf.io/qfbjc
- Thomson,R. THE RELATIONAL MOBILITY SCALE <http://relationalmobility.org/>

- Thomson, R., Yuki, M., Talhelm, T., Schug, J., Kito, M., Ayanian, A., Becker, J., Becker, M., Chiu, C. Y., Choi, H., Ferreira, C. M., Fülöp, M., Gul, P., Houghton-Illera, A. M., Jaosoo, M., Jong, J., Kavanagh, C., Khutkyy, D., Manzi, C., Marcinkowska, U. M., Milfont, T. L., Neto, F., von Oertzen, T., Pliskin, R., San Martin, A., Singh, P., Visserman, M. L. (2018) Relational mobility predicts social behaviors in 39 countries and is tied to historical farming and threat. *Proceedings of the National Academy of Sciences (PNAS)* . doi: 10.1073/pnas.1713191115
- Thomson, R., Yuki, M., & Ito, N. (2015) A socio-ecological approach to national differences in online privacy concern: The role of relational mobility and trust. *Computers in Human Behavior*, 51, 285-292.
- Thomson, R., & Ito, N. (2012) . The effect of relational mobility on SNS user behavior: A study of Japanese dual-users of Mixi and Facebook. *The Journal of International Media, Communication and Tourism Studies*, 14, 3-22.
- 山田順子, 鬼頭美江, & 結城雅樹. (2015) 友人・恋愛関係における関係流動性と親密性：日加比較による検討 実験社会心理学研究 = *The Japanese journal of experimental social psychology*, 11/2015, 巻 55, 号 1
- Yuki, Masaki; Schug, Joanna (2012) Relational mobility: A socioecological approach to personal relationships. 137-151 <https://doi.org/10.1037/13489-007> *Relationship Science: Integrating Evolutionary, Neuroscience, and Sociocultural Approaches*.
- Yuki, M., Schug, J., Horikawa, H., Takemura, K., Sato, K., Yokota, K., & Kamaya, K. (2007) Development of a scale to measure perceptions of relational mobility in society. CERSS Working Paper 75, Center for Experimental Research in Social Sciences, Hokkaido University.

付録

表 9 satisfice 回答者とそれ以外の回答者の比較

	日本			台湾		
	Satisfice 回答者	それ以外		Satisfice 回答者	それ以外	
N	394	606		93	807	
男性比率 (%)	53.6%	48.2%	$\chi^2=2.76$	46.8%	46.2%	$\chi^2=.012$
年齢 (平均値)	45.0	43.5	F=3.1	38.8	38.7	F=0.004
プライバシー 12 項目回答の標準偏差 (表 10)	0.58	0.88	F=116.2 ***	0.32	0.86	F=181.9 ***

注 性別の比率と年齢に関して全て有意差はなかった。プライバシー関連の 12 項目の回答については、分散が小さい傾向が統計的に有意であった。

表 10 プライバシー意識とインターネット信頼度・関係流動性との相関

	関係流動性との 相関係数		インターネット信頼度 との相関係数	
	日本 (N=606)	台湾 (N=807)	日本 (N=606)	台湾 (N=807)
インターネット信頼度	0.044	-0.011	1.000	1.000
テレビ信頼度	0.079	0.032	0.330***	0.552***
新聞信頼度	0.092*	0.026	0.097*	0.483***
1 プライバシーはもはやないのが現実だ	-0.030	-0.046	0.018	-0.064
2 私のプライバシーを政府がネットを利用して侵害しているのではと不安だ	-0.065	-0.033	0.008	-0.067
3 私のプライバシーを企業がネットを利用して侵害しているのではと不安だ	-0.029	-0.043	-0.022	-0.070*
4 私のプライバシーを他人がネットを利用して侵害しているのではと不安だ	-0.039	-0.069	0.013	-0.003
5 わたしは、ネット上で自分のプライバシーを守ることに積極的である	0.060	0.030	0.061	0.001
6 ネット上のプライバシーに関する不安が大きさに騒がれ過ぎている	-0.012	0.020	0.079	0.060
7 わたしは何ら隠すものはない	-0.041	0.001	0.042	-0.005
8 インターネットを使う時には、自分のプライバシー情報を公開するかどうか管理できる	0.130**	0.042	0.018	0.045
9 携帯電話やスマートフォンを使っているときは、たとえ友人でも画面を見られたくない	-0.050	-0.058	0.035	0.000
10 友人との会話を知らない人に聞かれたくない	-0.054	-0.029	0.014	-0.005
11 ふだん持ち歩いているカバンの中身は、たとえ友人でも見られたくない	-0.034	-0.054	0.061	-0.027
12 自分や家族の収入の額は、他人には知られたくない	0.031	-0.016	0.056	-0.025